

特別支援教育

【ICTを活用するポイント】自立活動の視点である「障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する」ために個々の児童生徒の実態等に応じて実施する自立活動。

実態把握（情報の収集・整理）の視点から

①できることや得意な方法，長所にも注目するために

活動の様子をタブレット等で記録し，活動をする中で見出された得意なことやよさを客観的に振り返る。教師も一緒に確認し，意欲的に学んでいた場面を把握する。

②活動の記録を累積するために

クラウド上に活動中の写真や動画，振り返り用紙等を保存し，児童生徒が何に興味・関心を持っているのか，可能性の芽としてどんな姿が期待できそうなのかを教師が考察できるようにしておく。

心身の調和的 発達の基盤を 培う自立活動

中心的な課題と指導目標（ねらい）の視点から

①成功体験を位置付け，中心的な課題を選定するために

学習活動で自分の役割に取り組んだり，考えを発表したりしている場面を動画で撮影し，自身の姿を教師と一緒に端末を使って視聴しながら，教師とよさを共有し自身の姿を確認する，改善したい点を教師と確かめる，さらに取り組みたいことを考えるなどして，自分のよさと今後さらによくしていきたいことを児童生徒が自覚できるようにする。教師は優先する指導や重点を置く指導を整理し，視覚的に児童生徒に焦点を当てる課題を示す。

具体的な指導内容を設定する視点から

①主体的に取り組む指導内容を展開するために

作品や製品を作る学習場面で，完成がイメージしやすいように完成図を画像で確認したり，作るポイントや工程を順序立てて確かめられるデータを端末に映しながら活動したりする。

②自己選択・自己決定を促すために

発表に向けての練習の様子を撮影した動画を，コマ送りや巻き戻し等の再生方法を使いながら繰り返し確認し，良かった点や改善したい点等について考え，次回の練習でやりたいことを児童生徒自らが選んで練習内容を設定できるようにする。

特別支援教育におけるICTの活用について （文部科学省）より

https://www.mext.go.jp/content/20200911-mx_t_jogai01-000009772_18.pdf



実践報告 中学部全（縦割りによるテーマ学習）「自然災害から命を守ろう！」

アップデートしよう

- ①端末のカメラ機能を活用した学びの視覚化と累積
- ②端末の利活用を通じたペア学習での学び合いと関わり合う場の設定
- ③撮影した画像を見合う視覚的な振り返りの充実

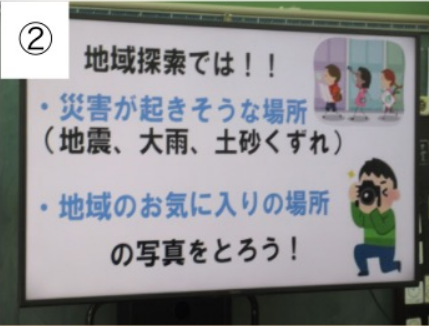
使用したアプリ等

- ・カメラ機能（展開場面で危険箇所等を撮影）
- ・大型スクリーン（振り返りの場面で個人が撮影した画像を共有）

本時のねらい

前時のオリエンテーションで自然災害に関心をもった子供たちが、ゲストティーチャーの話聞き、学校周辺に出かけ、地域の場所にとどのような危険があるかを考え、友達と協力して危険な場所を見つけることができる。

導入	画像提示	前時にふれた自然災害の危険ポイントについてクイズ形式で確かめ、活動への見通しをもつ 写真①② ※自分の「お気に入りの場所」も撮影することを確認し、身近な生活の中にある危険について自分事として考えやすくする。	★「4環境の把握」に関わって、生徒が見通しをもちやすくするために、画像を活用する工夫をしています。 ★「2心理的な安定」に関わって、「お気に入りの場所」も撮影することで、情緒の安定を図ることも重視しています。
展開	カメラ機能	地域に出かけて「危険だと思う場所」「自分のお気に入りの場所」を地域に出かけて撮影する 写真③④ ※一人一台ずつ端末を使う。 ※撮影場所について、ペアで教え合う場面を設定する。	
終末	共有	撮影した画像を共有し本時を振り返る 写真⑤⑥ ※友の撮影画像を見ながら、撮影した意図を全員で確認する。	



Aさんの姿と自立活動の視点からの学び (下線: 自立活動の視点からの学び)

導入では、Aさんは「この場所は(がけが)崩れてきそうだ」とつぶやきながら画像を注視し、この後の地域探索への意欲を高めていました。 【写真①②】

→自立活動の内容 「主体的に取り組む指導内容」

展開では、Aさんは探索していく中で、「きけん」という看板を見つけてその文字と周辺を撮影しました。またAさんが川に面している土手を見ているとき、友達から小石がむき出しになっている場所を指さしながら「あの場所が崩れそうだよ」というアドバイスを受けました。Aさんは「確かに」とつぶやきながら画像を撮影し、協力し合う姿が見られました。 【写真③④】

→自立活動の内容 「自ら環境を整える指導内容」「自己選択を促す指導内容」

振り返りでは、Aさんは自分が撮った画像を友達に示しながら「石が倒れてきそう」や「川の水があふれそうだよ」といった、実際にその場所に行ったからこそ感じることを、実感のこもった言葉で画像と共に発表する姿がありました。今後、撮影した画像が、「防災マップ」に反映されることも確認したAさんは、先生に「この写真を(防災)マップに載せたいけど、どうかな」と相談する姿もあり、次への見通しを明確にもつことにもつながりました。相談後、Aさんは「この写真、撮っておいてよかったよ」と先生に嬉しそうに話していました。

【写真⑤⑥】

→自立活動の内容 「環境の把握に関わる指導内容」

授業者の先生から

この学習を通して、「身近な生活の中にある危険」ということが分かり、「どの場所に注目したか」を振り返ることを大切に考えました。自分の体験を重ね合わせて危険箇所を考えている生徒もおり、画像の撮影をすることにより、危険を自分事として捉え、将来の社会参加に必要な意識へとつながっていく題材でした。今後は、更に画像を精選し、危険箇所がより画像を見る人に伝わりやすくなる伝え方について生徒と共に考え、工夫していきたいと思えます。

この事例のポイント 【 】: 自立活動における6区分との関連

- 画像の撮影を活動に位置付けることにより、主体的な活動内容にしようとしている。
また、単元の中に「防災マップ」を作成することを取り入れ、そこに掲載するための画像を撮影するという見通しがもちやすい状況を整えている。 【環境の把握】
- 「場所を選んで撮影する」という自己決定の場と協力し合う場が設定されている。 【人間関係の形成】
- 「お気に入りの場所」を撮影することを位置付けたことにより、情緒の安定を大切にしながら、生活の基盤を形成する活動につながっている。 【心理的な安定】
- 今後、撮影した画像をクラウド上で友と共有し、付箋ツールを用いて気づいたことなどを文字に表したり、音声入力したりして自分の思いを表出しながら、画像について意見交換する場の設定が考えられる。 【コミュニケーション】

